

## 自治体シェルターにおける動物群動態および疾患状況に関する疫学的研究

Epidemiologic research of animal population dynamics including disease prevalence and the outcome at 3 local municipality animal shelters in Japan

日本獣医生命科学大学獣医学部獣医保健看護学科 水越 美奈  
Mina Mizukoshi, Nippon Veterinary and Life Science University

キーワード: シェルターメディシン、群管理、罹患率

keywords: shelter medicine, population dynamics, disease prevalence

日本国内の自治体が運営する動物愛護センターに収容された動物の個体群動態と動物個体因子、疾患状況および結末を評価するために、2010年11月1日から2012年1月30日まで同規模の政令指定都市が運営する3か所(川崎市、千葉市、仙台市)の自治体シェルターに収容された猫1087頭、犬467頭を用いて、記述的疫学研究を行った。

収容理由は、飼い主による飼育放棄が猫で17%(186/1086)、犬で26%(123/467)であった。飼育放棄の理由は猫では「多すぎる」が最も多く、次いで「引っ越し」、「ペット不可住居」が挙げられた。犬では「飼い主の病気/死亡/高齢」が最も多く、次いで「引っ越し」、「経済的な理由」が挙げられた。アメリカでの犬の飼育放棄の理由は「引っ越し」を含め「攻撃性」、「不適切排泄」などの問題行動が上位を占める[1]が、本研究では犬では問題行動が目立った飼育放棄の理由には含まれなかった。しかし「引っ越し」と「問題行動」の関連性は疑われており、引っ越し後も飼育を続行できなかった理由の背景に「問題行動」が潜んでいる可能性があると思われる。猫での飼育放棄の理由はアメリカでの研究結果と類似するが、アメリカでは「不適切排泄」等の問題行動も見られるが[2]、本研究では問題行動が特に顕著な結果としては示されていない。

飼育期間としては、猫では1年未満が多かつ

た(53%)のに比べ、犬では10年以上が多かった(56%)。性差は猫ではほとんど見られなかったが、犬では雄の方がおよそ3倍多かった。収容された子猫のうちおよそ半分に下痢/消化器症状が見られ、致死率も高い(10%)ことが分かった。犬猫ともに譲渡率は約50%であったが、猫では14%がシェルター内で主に感染症が原因で死亡していた。

猫汎白血球減少症ウイルス感染症の罹患率は一つのシェルターが他のシェルターと比べて極めて高く(13.5%)地域性の影響が高いことが考えられた。アメリカのシェルターで常に問題視されている[3]猫ウイルス性鼻気管炎の罹患率は8%(0.27%~13.4%)であり、アメリカに比べて非常に低い値を示した。

犬でもっとも発生率の高かった疾病は下痢で、次いでフィラリア症であったが、特に顕著な疾病兆候は見られなかった。

猫の疾患についてはアメリカで問題視されているネコウイルス性鼻気管炎はそれほど多くなく、ほとんど問題視されていない下痢の有病率と死亡率が高いことは興味深い。子猫の下痢は重篤度も高く、子猫の苦痛の緩和だけでなく、治療にかかる費用やスタッフの負担なども無視できない。シェルターにおける子猫の下痢の発生要因や寄与因子のさらなる調査が必要と考えられた。また本調査では子猫が下痢と診断されるまでの平均日数は約12日であったことから、

猫のシェルターにおける滞在期間を短縮することも軽減につながるかもしれない。さらに猫の収容頭数は子猫が圧倒的に多いことから、早期不妊手術を含め不幸な繁殖を防ぐ効果的な方法が必須であることは疑いの余地はないだろう。

#### 引用文献

1) Patronek, G.J., et al., *Risk factors for relinquishment of dogs to an animal shelter.*

*J Am Vet Med Assoc*, 1996. **209**(3): p. 572-81.

2) Patronek, G.J., et al., *Risk factors for relinquishment of cats to an animal shelter. J Am Vet Med Assoc*, 1996. **209**(3): p. 582-8.

3) Edwards, D.S., et al., *Risk factors for time to diagnosis of feline upper respiratory tract disease in UK animal adoption shelters. Prev Vet Med*, 2008. **87**(3-4): p. 327-39.